（別紙様式）学力向上の実践校リスト

井 原 市 立 出 部 小 学 校

キーワード

３　思考力・判断力・表現力等の育成

標　題

主体的に読み，目的に応じて自分の言葉で豊かに表現する子どもの育成に重点を置いた取組

①学校の概要（平成２５年５月１日現在）

・児童生徒数　４１５名	・学級数　１４学級	・教職員数　２２名

②取組を始めた経緯

　新学習指導要領において，知的活動やコミュニケーション，感性・情緒の基盤である言語力の確かな育成のために，国語科における指導の充実とともに，各教科等においても国語科で培った能力を基本に言語活動の充実を図ることが重要であると述べられている。
　また，本校児童の実態として，全国学力・学習状況調査や総合学力調査をみると，　基礎的な知識・技能の習得を問う問題の正答率は比較的高いものの，知識・技能を実社会の様々な場面に活用する力を問う問題の正答率が低く，身に付けた知識・技能を活用する力が十分でないことなどが挙げられた。
　これらのことから，本校では，身に付けさせたい力を明確にしながら，習得した知識・技能を活用することができるような言語活動を適切に位置づけること，そして，目的に応じたさまざまな表現様式に即して表現することができるよう指導過程を工夫する必要があると考えた。そして，国語科を中心としながら，言語活動を充実させ，各教科等の基礎となる言語能力を身に付けさせるとともに，知識・技能を活用する学習活動やこれらの成果を踏まえた探究活動を通して，思考力・判断力・表現力を養うことが大切であると考え，「主体的に読み，目的に応じて自分の言葉で表現する子ども」を育成することを目指していくこととした。

③取組の実施体制

〇中学校区での体制
　井原中学校区の中で，出部小学校が拠点校となり，他５校に協力校として，取組の共通のキーワード「表現力」の向上を目指し，体制づくりを行った。各校からの参加者で「井原中学校区研究推進委員会」をつくり，「学力分析」「取組の情報交換」「取組の方向の共通理解」などを行いながら，中学校区として「学力の向上」のための体制を整えた。

〇校内での体制
　授業を進めるにあたって，指導案の形式や指導法を考えたり研究協議のもち方について提案したりする「授業研究部」，校内環境や各種掲示物を整備していく「言語環境部」を置いた。また，指導案の検討や言語環境部から出た掲示物の内容検討などは「低・中・高学年部」に分かれ取組を行った。
　各部での実践や全体での共通理解を図る場として「全体協議会」を置き，研究体制の充実と方向性の確認をしながら研究を確実に進めていけるように体制を整えた。

④学力向上に向けた具体的な取組

本校としては，研究主題「主体的に読み，目的に応じて自分の言葉で豊かに表現する子どもの育成～言語活動の充実を通して～」に迫り，また，本校児童の学力向上を目指し，次の３点から研究を進めていくことにした。

（１）学力向上に向けて

・朝の学習（ドリル，読書，暗唱など）による，基礎基本の定着を図る。

（ア）ドリル，読書は，月前半・後半に分け，８：１５～８：２５の間に行う。ドリルでは，教科の補充的な学習・繰り返し（ドリル）学習を中心に，読書では，自分で決めた本を中心にして，読書をしたり，高学年の児童の係活動として紙芝居やペープサートの劇を低学年の児童に見せる活動も行う。

（イ）暗唱では，毎月第１月曜日の「児童朝礼」を発表の場とし，どの学年も１年に１回ずつ暗唱を発表する。暗唱は，全学年を見通して題材を選び，年間計画を立てて授業や家庭学習などで取り組み，教師が聞いたりお互いに聞きあったりして，全員が暗唱することができるようになることを目標とする。

・「家庭学習の手引き」「生活反省カード」を学年始めや長期休業明けに家庭へ配布し，家庭との連携を図ることで，家庭学習の定着を図る。

・意識調査（国語科）を５月と２月の２回実施し，児童の学習への思いや意識の変化を把握することで，学習へ生かしたり，今後の取組の参考とする。

・学力調査の結果分析を行い，本校の児童の実態を把握し，指導に活かす。

（２）授業改善とワークショップ

・同学年で二次三次を含む同単元で授業公開を行い，単元を通した実践をめざす。

・授業後の研究協議では，ワークショップを取り入れ，授業改善を図る。

（３）言語環境の整備

・教室環境の工夫をする。

（ア）言語活動を反映した作品掲示を行い，学習したことをまとめた新聞やカードなど授業の様子の分かるものなどを掲示する。

（イ）言語活動に関するコーナーを作り，学習に使ったもの、児童の作文、児童に適した詩などを掲示する。

・校内環境の工夫をする。

（ア）掲示物の整備を行い，階段や廊下壁面の掲示板の充実を図る。

（イ）学年別暗唱内容等の掲示をし，各学年の暗唱内容や学習作品などを掲示して言葉に関する児童の関心・意欲を高める。

また，井原中学校区としても学力向上に向けて取組を行った。

（１）授業研究と改善

・公開授業や学力分析を行う。

（２）学習環境の改善と充実

・学校の実態に応じた「家庭学習の手引き」「学習規律」の作成を行う。

・言語環境の充実を図る。

（３）研究協議の改善と充実

⑤取組の成果と課題

１　成果

〇単元を貫く言語活動を設定することにより，児童一人一人が「なぜこの文章を読むのか」という必要感や目的意識をもちながら，意欲的に学習に取り組むことができるようになり，また，習得と活用を図る単元づくりを意識して授業づくりを行った結果，指導すべき事項が明確になった。

〇言語活動の充実は，言語環境の整備がその基盤となる。教室にも，廊下や階段にも，言語活動の題材やそのモデル（ノートや作品），その規準等を掲示したり展示したりした。学校生活の様々な場面で言語環境が整うことで，児童の言葉の力が少しずつ高まった。

〇公開授業や学年部の研究授業で，ワークショップを取り入れた研究協議に取り組んだ。大阪教育大学の木原先生にご指導をいただくことで，ワークショップの進め方やまとめ方など，大いに参考となった。また，多くの教員が研究授業に関して意見を出し合うことができ，協議の活性化に大変有効だった。協議後のアンケートでも，ワークショップのよいところとして，「意見交換が活発」「発言しやすい」「話合いが深まる」という回答が多かった。また，協議の中で授業の課題が明確になり，中心となる課題について話し合うことができたことは，授業改善につながった。

〇井原中学校区の学力向上実践事業の共通の取組としても，ワークショップ形式による協議を各校が取り入れるようになり，互いに授業参観・協議をし合ったことで，研究推進の活発化につながった。

〇国語科の「年間計画」と「単元指導計画表」を作成・修正することで，各学年の教材についての研究分析につながった。また，学年間の教材の系統性を確認することにもつながり，見通しをもった学習計画を立てることもできた。

２　課題

〇児童が第二次までに習得した表現方法を第三次や別の単元で活用できるような単元構成を工夫したが，自分の考えが広がったり深まったりしたことを児童自身が実感することはできにくかった。児童が自分の力の伸びを実感したり満足感を味わったりすることができるための評価について考えていく必要を感じた。

〇言葉の力が，短い期間で身についたり伸びたりするのは大変難しい。日々の学習や生活の中で粘り強く取り組む中で，さらに身につくよう取り組んでいくことが大切になる。また，授業の中で児童が書いた作品を残しておき，次年度の学習に活かせるようにしたい。

〇習得と活用は，どちらも同じくらい大切であるが，どの単元でも活用を徹底して行うというのは難しい。他の教科や総合的な学習と連動させて取り組んでいきたい。

〇研究協議後のアンケートでは，ワークショップのよくないところとして，「時間が少ない」「授業者とのかかわりが少ない」等の回答があった。また，「話合いの内容をもっと焦点化して，今後に生かすことができるようなワークショップにしたらどうか」「授業者のプラスになるような代案がたくさん出るようなワークショップになるとよい」といった意見もあった。今後もワークショップの職員研修やファシリテータの研修を行いながら，今後の授業改善に生かせるような協議にしていきたい。

〇井原中学校区の学力向上実践事業として，小・中連携の方法を，互いの公開授業・研究協議へ参加するということを中心に進めてきたが，今後はそれ以外にも可能な形を模索し，推進していきたい。

⑥取組の継続・発展の要因

昨年度の成果と課題をもとに，今年度も昨年度の取組を継続していく。暗唱などは，指定校になる以前から取り組んでいたもので，児童の意欲が高いものである。今年度は，児童や教員からその場で感想を伝えることで，満足感を味わえるようにするとともに，聞いている児童にとっても言語活動の場となるようにしていく。朝のドリルの時間などでは，「学びのチャレンジコンテスト」を取り入れ基礎基本の定着を図るとともに，「単元到達度テスト」も引き続き行うことで学力向上につなげていく。

井原中学校区全体での取組では，小・中連携の観点からも情報交換をいっそう密にし，中学校区でベクトルの方向を合わせていく。

⑦管理職・中核教員等のアクション

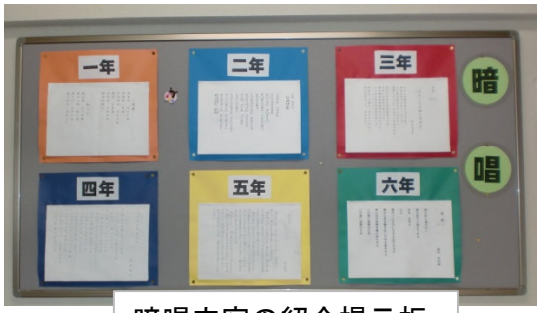
管理職は，各部の取組状況を把握し，適宜助言や指示を行った。中核教員は，各部（授業研究部・言語環境部・各学年部）の責任者としてとりまとめをしたり，学力向上についての資料や情報を収集したりしながら，研究が深まるように主体的に取組を行った。また，中学校区での実践の方向性を出したり，話合いの企画をしたりと，拠点校だけでなく協力校を含めて，研究の方向性が合うように行動をした。

⑧資料・写真等

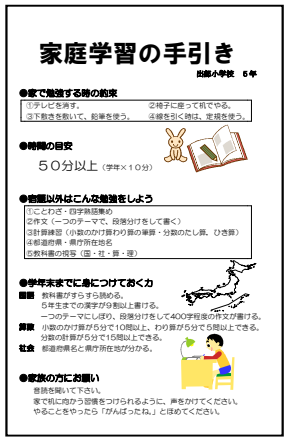
ワークショップの様子

講師を交えての研究協議

暗唱発表の様子



暗唱内容の紹介掲示板



家庭学習の手引き

出部小学校　5年

●家で勉強する時の約束

①テレビを消す。　②椅子に座って机でやる。
③下敷きを敷いて、鉛筆を使う。　④線を引く時は、定規を使う。

●時間の目安

５０分以上（学年×１０分）

●宿題以外はこんな勉強をしよう

①ことわざ・四字熟語集め
②作文（一つのテーマで、段落分けをして書く）
③計算練習（小数のかけ算わり算の筆算・分数のたし算、ひき算）
④都道府県・県庁所在地名
⑤教科書の視写（国・社・算・理）

●学年末までに身につけておくカ

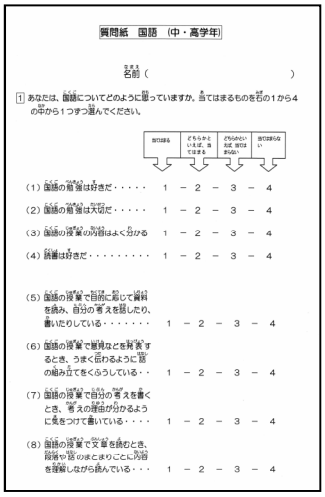
国語　教科書がすらすら読める。
5年生までの漢字が９割以上書ける。
一つのテーマでしぼり、段落分けをして400字程度の作文が書ける。

算数　小数のかけ算が5分で10問以上、わり算が5分で5問以上できる。
分数の計算が5分で15問以上できる。

社会　都道府県名と県庁所在地が分かる。

●家族の方にお願い

音読を聞いて下さい。
家で机に向かう習慣をつけられるように、声をかけてください。
やることをやったら「がんばったね。」とほめてください。



質問紙　国語　（中・高学年）

名前（　　）

1 あなたは、国語についてどのように思っていますか。当てはまるものを右の1から4の中から１つずつ選んでください。

当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない

（1）国語の勉強は好きだ・・・・・　1 － 2 － 3 － 4
（2）国語の勉強は大切だ・・・・・　1 － 2 － 3 － 4
（3）国語の授業の内容はよく分かる　1 － 2 － 3 － 4
（4）読書は好きだ・・・・・・・・・　1 － 2 － 3 － 4
（5）国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている・・・・・・・　1 － 2 － 3 － 4
（6）国語の授業で説明などを聞くときに、うまく伝わるように話の組み立てをくふうしている・・　1 － 2 － 3 － 4
（7）国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている・・・・　1 － 2 － 3 － 4
（8）国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる・・・　1 － 2 － 3 － 4